

研究に関するお知らせ

【*Helicobacter pylori* 陰性胃十二指腸潰瘍における リスク因子についての検討】

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院 消化器内科では、以下にご説明する研究を行います。

この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんのでご安心ください。

■研究目的・方法

胃十二指腸潰瘍と診断された方は*Helicobacter pylori*、いわゆるピロリ菌感染が陽性であることが多いとされています。そのため、ピロリ菌感染をしている方への胃十二指腸潰瘍の治療の第一選択は除菌治療となっています。しかし近年、除菌治療が進むことでピロリ菌が陰性にも関わらず、胃十二指腸潰瘍となる方が増えてきているのが現状です。

本研究では、当院での診療記録を調査することでピロリ菌が陰性の場合の潰瘍発生の原因となるリスク因子を明らかにします。また、陰性のうち、一度もピロリ菌にかかったことのない未感染症例とピロリ菌が消失した既感染症例を比較検討し両者の特徴を明らかにします。これらの結果により、ピロリ菌陰性患者さんの胃十二指腸潰瘍の発症リスクの予想、潰瘍発症予防に繋がることが期待されます。

■研究期間

理事長承認日～2023年3月31日

■研究の対象となる方

・2018年1月～2021年7月までの間に、当院で胃潰瘍または十二指腸潰瘍 A1 stage、A2 stage (崎田・三輪分類)と診断された方。

■研究に用いる試料・情報の種類

上記の対象期間中に診療録に記録された診療情報(生活歴、既往歴、併存症、潰瘍部位、病理診断、等)を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

■利益相反について

利益相反の状況についてはNCGM利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関する研究全体及び研究者個人として申告すべき利益相反の状態はありません。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き等

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。

ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。

ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■研究責任者:

国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院 消化器内科診療科長 矢田智之

■お問い合わせ先

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院

千葉県市川市国府台 1-7-1

047-372-3501

国府台病院 消化器・肝臓内科レジデント 伊藤はるか

■掲示場所・交付場所

消化器・肝臓内科 診察室および外来窓口